

日 時／平成28年6月2日(木)
会 場／ウェスティンナゴヤキャッスル2F

公益社団法人 名古屋西法人会
第1回通常総会記念講演会

『笑いは心の栄養剤』

落語家

三遊亭 円楽 氏



芸の壁にぶつかる

『笑点』の司会になれなかった円楽でございます。

以前から春風亭昇太が司会になることが決まっていたのですが、“ハラグロ人間”として世間を騙せて気持ちがいいものです。若干27歳でレギュラーにさせていただいて39年経ちました。

『笑点』1回目からの生き残り、歌丸師匠は今年80歳になり、先日リタイアしました。15歳で漸家になって芸歴65年、体力の限界を感じて、落語だけやっていきたいと、この度の卒業になります。

した。落語では引退はせず、全国を廻ると言っています。

今から20年ほど前、私は芸の壁にぶつかりました。稽古をしていればすぐに破れる薄っぺらな壁ですが、「平々凡々で終わりたくない」「落語家とは何だろう」「日本人って何だろう」「笑いって何だろう」、そんな事を考え始めました。

そのとき思ったのは、自分は「日本語で日本人しか相手にできない」ということです。その国の独自の文化、原作者の息吹、土地の香りなどのニュアンスが外国語に翻訳して伝わるのか疑問だと思ったのです。

そう気がついたのは20数年前、『暴れん坊将軍』で火消しの小頭として出演していた時です。知り合いの監督さんに英語版の『暴れん坊将軍』を観せてもらいました。字幕入りでした。

小頭の半纏を着た私の台詞は、「おう、テメエンちはよお」字幕は、“Hey! you!”。

お侍さんの「貴公は」も、“you”、日本語ではキミ、お前、テメエ、など相手や場面によって言葉が変わりますが英語では相手はみんな youなんです。

ヤクザもんが三度笠を取って「お控えなすって！」は、“How are you?” 驚きました。

「日本人とは何か」を考えていた頃、諸外国の方が日本人をどう見ているか、「日本人のイメージ調査」がありました。「勤勉・実直・真面目で正直、働き者」という良いイメージでした。

私どもより上の年代は「男がヘラヘラするんじゃねえ」、「女、子どもは黙っていろ」、「男のやる事に口出すな」と育てられました。

そんな男性社会になるのは鎌倉以降です。家康はすごい人です。徳川十五代、ひとつの家系が「戦」なくして国を治めたのは世界史に他に類をみません。

江戸に幕府をおいたのは誰も住んでない湿地帯なのでインフラが簡単と考えたのです。

困ったのは水です。時代劇などで長屋の奥に井戸がありますが、あれは地下水の井戸ではなく木管水道です。江戸城の中に木管水道を入れるためにサイホンの原理で吹き上げたのです。だから「吹上御門」や地名「お茶の水」「水道橋」があります。

家康がすごいのは国策です。鎖国をして、独裁のために情報をシャットアウトしました。

御三家制度をつくり、血筋を守り、十五代に渡る土台つくりをしました。

御三家はご存じですね？





橋幸夫、西郷輝彦、舟木一夫(笑)ではなく、水戸の中納言、尾張の大納言、紀伊の大納言です。大納言と中納言の違いは納豆か甘納豆の違い(笑)。納豆はどう粘っても副将軍止まり、甘い汁を吸うには大納言でなければダメなんです。

完璧な中央集権体制、上意下達(かたつ)です。

民・百姓たるもの勤勉に実直に、お上のために尽くす。「お上に逆らっちゃいけねぇ」、「今度のお上は有り難てぇな。お米の値段が安くなつたぜ」。

300年近くお上のお陰というシステムをつくったのです。

明治維新、今までにない革命が起こりましたが、「お上」が「お国」に変わっただけ。

富国強兵、重工業殖産振興をしながらお国のために働く。お国のやることだから仕様がない。「アベノミクス? 食べたこともねえや」になり、政治離れしてしまうのです。

落語はユートピアの世界

「笑い」は人間だけがもっている高度な感情で、人間だけが笑うのです。

文明が発達して、笑いを作り出しました。ユーモア、ウイット、ジョーク、ナンセンス、エスプリ。日本人は落語という笑い

の芸能を作り上げました。

赤ん坊は初めて母親を認知したときに“笑う”そうです。その笑顔は心に何の歪みもない真っさらな状態だから「左右対称の笑い」と言われます。

それを見た大人は同じように笑顔になります。「写し鏡」の笑顔です。赤ちゃんは無防備ですから、こちらも無防備になれるのです。そのうち知恵がついて、愛想笑い、照れ笑い、ごまかし笑いを覚えるようになります。

ストレス社会で「プチうつ病」になると、イライラし始め、高じると怒りっぽくなり攻撃的になります。町中に、何故こんなことで怒りっぽくなっているんだろうって思う人がいっぱいいます。

戦後、復興という名のもとに日本人が一丸となって頑張ってきました。一丸となっていましたから、近所付き合いがありましたでしょ。今は、隣近所はなくなっています。「秋ふかし隣は何をする人ぞ」の意味ですが、「隣は何をしていらっしゃいますか。お困りのことはないですか」と覗いているんです。お節介なんです。でも今は面倒だから関わらない。人と繋ぐのは笑顔と言葉なんですが自分の周りにバリアを作るから、ちょっとしたときに言葉も笑顔も出なくなってくるんです。

昔、モノがない時代は、お互に辛いけれど頑張りましょうと

助け合いました。

今はモノ余りでお付き合いしなくても済んでしまう。経済発展ばかり願っているから人間教育をやらないでしょ。だから落語を聞かなくなつてはダメなんです。モノが溢れると「心の時代」が待望されるのです。落語の中には隣近所があって、ちゃんと長幼の序がある。落語はそれを教えてくれる本当にいい教科書です。私はユートピアがあるなと思って落語をやっています。

いまストレス社会といわれます。日本人は勤勉・実直ですから、何でも引き受けてしまい、最後に言う台詞は「なんで私ばかり」となってしまいます。

人は考える力があるのですからストレスを感じたときに、「もうダメだ!」と思ったら逃ればいいのです。「頑張ろう」と感じたとき、例えば試験勉強は、戦わなければ仕方ありません。

しかし朝の満員電車がイヤなら1時間早い電車に乗ればいいんです。

イヤなことは忘れる努力をすればいいんです。

大切な人の死は大きなストレスです。悲しい最中に葬儀社と相談し通夜の日程を決め別式、初七日法要をやり四十九日の納骨などを済ませ一周忌を迎えます。三回忌、七回忌、十三回忌、だんだんスパンが延びて、きちんと法事をしていることの



安心感。緩やかに忘れ、思い出話で供養するのです。

日常のストレスの対応法は「諦める」です。ご主人がストレスならば、亭主は稼いでくるペットだと思えばいいんです。少し可愛がってやろうと一品おかげを増やせば、喜んで尻尾振るんです。こいつのせいだと思うから腹が立つ。イライラする自分が悪いと思うと楽です。

楽しいこと、
面白いことを
いっぱいやりましょう

「笑門来福」。35年ほど前、アメリカの大学の、笑いと免疫の実験で「面白いことをやっていると、痛みを感じにくい」と証明されました。

岡山の病院では、末期ガン患者をモンブランに登頂させました。帰って調べたらガンが萎縮していて、1年もたないと言われた患者さんが5年生き延びたそうです。「目的・希望」を与えるだけではなく「笑い」も取り入れようと松竹芸能劇場『角座』に行き、漫才・落語を楽しんでから血液検査をしたらNK細胞が増えました。

春山茂雄先生は『脳内革命』で、プラス思考をすることによって脳の中に脳内モルヒネが出てくると書いています。面白いこ

と、楽しいことを考えると麻薬状のものβ-エンドルフィンが心の重み、体の辛さを和らげてくれるのです。

脳外科のお医者さんの話です。頭の中の脳幹は「自律神経・免疫・感情」が三位一体になっていて、ひとつでもバランスを崩すと全体が崩れ、ひとつ活性化すれば全体が上向きになるそうです。自分で調整できるのは感情だけですから、私は「心のスイッチ」と言っていますが、プラス感情に変えるスイッチを持つのです。スイッチが入らないときは一生懸命に入れようとするのです。月末、1万円しかないとき、「情けない」ではなく「あらま、今月あんなに使ったのに1万円も残ったわ」…とは思いにくいでしようけれど(笑)思うのです。

老いると、面倒だと人と会わなくなり、社会的生活をしなくなりがちですが、今日の皆様のように、お洒落して講演会に出掛けください。

朝、目が覚めるから生きているんです。「頑張ろう」と気のスイッチを入れましょう。

「(元気な声で) おはよう!!」

「掃除しよう!」。

今日がスタートしたら昨日は捨てましょう。面倒くさいと思ってはダメです。

人生は力を補うゲームだと60歳を過ぎて感じます。頑張るのは努力、我慢するのは忍耐力、

金は財力と言います。財力が足らなければ働こうと思えばいいのです。

「もうトシだから何の欲もねえや」と言いますがウソ、食欲・性欲あって当たり前、物欲もあっていいのです。欲があるから頑張れるのです。

言葉と笑顔が人を結びます。笑顔が少ないとしたら笑顔を出す努力をしてください。言葉が減ってきた、ストレスが溜まっているなと思ったら「ありがとう」「ごめんなさい」と言ってください。

人の前を通るときにちょっと会釈して「前をごめんなさい」と言うと「どうぞ」と相手も言葉を返してくれます。お互いに声をかけて繋がりをもって笑顔と言葉をいっぱい出して、心の栄養剤としてください。

* この原稿は平成28年6月2日の講演を要約したものです。

文責：(公社)名古屋西法人会

